

Economic Indicators

発表日: 2023年11月16日(木)

貿易統計(2023年10月)

～自動車輸出が牽引する構図が継続。先行きは減速を見込む～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL: 03-5221-4525)

		貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量							
		輸出金額		輸入金額		アメリカ		EU		アジア		アメリカ		EU		アジア	
		原数値	季調値	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
22年	11月	▲ 20,576	▲ 18,217	20.0	30.6	▲ 0.8	2.3	8.6	▲ 5.4	▲ 6.5	▲ 14.7	2.5	▲ 4.5				
	12月	▲ 14,979	▲ 18,939	11.5	21.2	▲ 5.0	▲ 3.1	6.3	▲ 9.8	▲ 6.3	▲ 8.3	8.9	▲ 10.5				
23年	1月	▲ 35,064	▲ 17,720	3.5	17.2	▲ 8.3	▲ 1.5	▲ 6.5	▲ 12.6	▲ 2.6	▲ 1.0	▲ 8.3	▲ 2.0				
	2月	▲ 9,199	▲ 12,164	6.5	8.2	▲ 6.3	2.3	0.6	▲ 10.8	▲ 8.6	▲ 8.6	▲ 5.1	▲ 8.2				
	3月	▲ 7,588	▲ 12,085	4.3	7.1	▲ 7.5	▲ 5.7	▲ 14.6	▲ 9.4	▲ 3.5	0.8	▲ 5.7	▲ 2.0				
	4月	▲ 4,364	▲ 9,920	2.6	▲ 2.7	▲ 4.4	▲ 0.4	1.4	▲ 9.2	▲ 1.6	▲ 5.2	▲ 3.9	2.3				
	5月	▲ 13,821	▲ 7,800	0.6	▲ 10.2	▲ 3.6	2.1	4.5	▲ 8.8	▲ 6.6	▲ 6.8	▲ 6.2	▲ 7.6				
	6月	392	▲ 5,698	1.5	▲ 13.1	▲ 4.0	3.9	1.3	▲ 11.0	▲ 7.6	▲ 14.0	5.0	▲ 5.9				
	7月	▲ 637	▲ 5,720	▲ 0.3	▲ 14.1	▲ 2.8	9.4	1.0	▲ 10.2	▲ 6.2	▲ 12.2	15.6	▲ 8.8				
	8月	▲ 9,432	▲ 5,501	▲ 0.8	▲ 17.6	▲ 5.3	3.8	1.1	▲ 11.5	▲ 9.0	▲ 9.6	5.1	▲ 8.6				
	9月	721	▲ 4,203	4.3	▲ 16.6	0.2	8.6	▲ 0.6	▲ 3.2	▲ 3.9	▲ 13.0	▲ 6.2	0.2				
	10月	▲ 6,625	▲ 4,620	1.6	▲ 12.5	▲ 3.3	8.8	0.4	▲ 7.7	▲ 3.2	▲ 0.1	0.8	▲ 2.7				

(出所)財務省「貿易統計」。

○貿易赤字(季節調整値)は高水準の赤字が続く

財務省より発表された23年10月の貿易統計では、名目輸出が前年比+1.6%、名目輸入が同▲12.5%、貿易収支は▲6,625億円の赤字(事前の市場予想: ▲7,410億円、筆者予想▲6,110億円)となった。季節調整値でみると、名目輸出が前月比▲1.2%、名目輸入が同▲0.7%とどちらも減少し、貿易収支は▲4,620億円の赤字となった。輸入物価の下落に伴い名目輸入の減少が続く一方、世界的な製造業部門の景況感低迷から名目輸出も伸び悩んでおり、依然として高水準の貿易赤字が続いている。なお、輸入物価については22年秋頃までの高い伸びの裏が一巡したことを受けて、今後は下落幅を縮小させる見込みである。これにより名目輸入も今後は減少ペースを緩める見込みであり、貿易収支の赤字基調は当面続くだろう。

物価変動の影響を除いた実質輸出(季節調整値)は、10月は前月比+0.8%(9月:同+5.1%)と2か月連続の増加となった(実質化と季節調整は第一生命経済研究所)。半導体等部品不足の緩和により、挽回生産が続く自動車輸出が全体の牽引役となっている構図は変わらない。主要な品目別には、前月に落ち込んだ輸送用機器が前月比+7.0%(9月:同▲3.5%)と大きく増加したことが押し上げた。このほか、電気機器が同+3.8%(9月:同+0.3%)と増加した。電気機器については、22年下期から落ち込みが続いてきたが、23年7-9月期に前期比+1.9%(4-6月期:同▲1.4%)と増加に転じたのち、10月も前月比+3.8%の増加となった。減少が続いてきたIT関連財にこのところ底打ちが見られることは、好材料といえるだろう。

もっとも、実質輸出の先行きについては減速を見込んでいる。これまで牽引役となってきた自動車輸出に関しても、今後は挽回生産の縮小によって増加ペースを鈍化させていく可能性が高い。世界的

な財需要の減少から自動車以外の財輸出はすでに低迷しており、自動車輸出の失速はそのまま実質輸出の失速となりやすい。先行きも欧米を中心とした経済減速が見込まれる中で、実質輸出はペースを抑制される可能性が高いだろう。

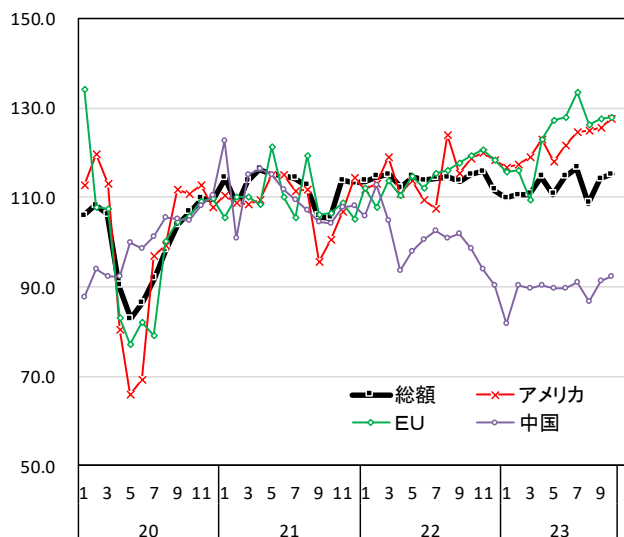
○地域別実質輸出の動向

実質輸出を地域別にみると、米国向けが前月比+1.4%（9月：同+0.5%）、欧州向けが同+0.2%（9月：同+0.9%）、中国向けが同+1.2%（9月：同+5.2%）となった。

米国向け輸出は、ウェイトの大きい自動車輸出の増加が支えとなって、均せば増加傾向で推移している。もっとも、今後はこれまで積みあがっていた自動車需要も一巡することで、増加ペースは鈍化する可能性が高い。おなじく自動車輸出のウェイトが大きい欧州向けではすでに減速気味であり（7-9月期欧州向け輸送機器輸出：前期比▲5.1%）、足元で頭打ちが見えはじめている状況だ。自動車以外の財輸出についても、米国、欧州ともにこれまでの金融引き締め政策の悪影響で先行きの経済減速が見込まれる中で、順調な回復とはいかないだろう。10-12月期は減速する可能性が高いとみている。

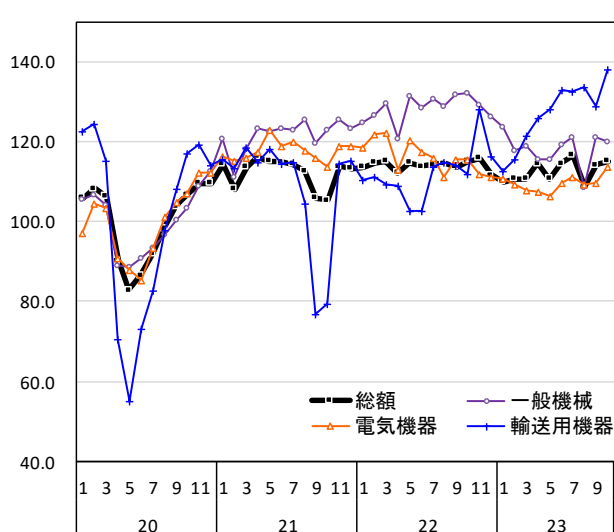
中国向け輸出は、電気機器やその他財輸出で減少傾向が継続しており、中国景気の低迷によって23年入り後から底を這う動きが続いている。中国経済が回復の軌道に乗るには時間がかかるとみられ、中国向け輸出の持ち直しも当面は期待できないだろう。これに加えて、8月以降は半導体製造装置の輸出規制強化や中国の日本産水産物の輸入規制など、日中間の政治的要因による下押しもあり、こうした影響は長期に渡る可能性がある点も懸念材料だ。中国景気の低迷が続く中で政治的要因も絡み、中国向け輸出は軟調な推移が続くだろう。

(2020年=100) 地域別実質輸出(季節調整値)の推移



(出所)財務省 ※実質化および季節調整は第一生命経済研究所

(2020年=100) 財別実質輸出(季節調整値)の推移



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。